



消防大学校だより

女性活躍推進コースにおける教育訓練

消防大学校では、今回で4回目となる、女性活躍推進コース第4回を開催しました（令和元年12月12日～20日）。

このコースは、女性消防吏員で消防司令補又は消防士長の階級にある幹部候補生に対して、キャリア形成を支援し、職域拡大等を目的とした知識及び能力を修得するために行うもので、今回の教育訓練内容は、知識・技術の向上を図るため、カリキュラムの充実を図りました。

全国の消防本部から51名の学生が受講し、入校前のeラーニングによる個別学習と全7日間の全寮制の集合教育を全員無事に修了しました。

1 主な教育訓練の概要

(1) 指揮訓練Ⅰ（指揮隊運用訓練）

部隊運用に必要な基本的指揮要領を修得するとともに、現場指揮技術及び安全管理能力の向上を図ることを目的として、学生3人1組で指揮隊を編成し、火災発生時の指揮隊の活動についてシミュレーション訓練（図上訓練）を実施しました。

訓練では、シミュレーションシナリオの災害状況・活動条件の付与に基づき、命令（指示）、実行（活動）、評価という「指揮サイクル」を繰り返し実施することで、消防活動における指揮隊の役割について再認識するとともに理解を深めました。

(2) 火災現場指揮（火災性状及び安全管理の知識）

火災防御活動を実施する上で重要な安全管理の基礎である「完全着装」と、活動に必須の「火災性状」に対する理解を深め、活動上の危険性を実際に目で見て知り、指揮能力を高めることを目的として実施しました。

ワンルームマンションを想定した高気密で小区画の奥行12mのコンテナ内で、木材を燃焼させて、火災現場における活動を想定した現場と同様の熱、煙の状況をつくり、中性帯やロールオーバー等の火災性状を観察するとともに、合わせて注水による熱環境の変化や、脱出時間を確保するための注水技術を体験しました。



集合写真

2 座学・課題研究等

座学では、最新の消防行政の動向や元女性消防署長の女性のキャリアに関する講義、今後、幹部として必要になる人事管理、実務管理、予防実務、部下指導のための

ペップトークや教育技法、課題討議及び説得技法等の講義を受講しました。

また、女性消防吏員の活躍について、消防大学校が提示した3つのテーマから選択して入校前に調査研究を実施しました。入校中、その結果について各学生が発表を行うことで、様々な課題や対応策に関する情報を共有し、今後、女性消防吏員の活躍に繋げるという意識を醸成するとともに、幹部職員としての視点や考え方を養うことも目的としました。

課題研究発表には、全国の各消防本部や消防学校で活躍し、ロールモデルとなる女性消防吏員4名をコメンテーターとして招き、学生の研究した課題や解決策等についてアドバイスをいただきました。

全ての研修を終えた学生からは、「自分自身の状況を再認識でき、様々な講義により見識が広がった。」「課題討議等のグループワークが多く、様々な意見交換ができ、有益な時間となった。」「指導する立場としての教育内容が大変有意義であった。今の若手職員と違い、警防隊に行くことができなかったため、圧倒的に警防隊の知識が少なく、今回の火災戦術や指揮隊訓練は、これから女性が警防業務につく機会が増えるため、警防について勉強するための良いきっかけになった。」「座学と実技の時間数のバランスが良かったです。課題研究に向けて、段階的にプレゼン能力や話し方を学ぶことができ、技術の習得を体感することができました。」等の感想が多く寄せられました。

本コースでは、知識技術の修得を行うとともに、同じ悩みをもった仲間と今後のキャリアプラン、ライフプランについて語り合い深く考えることで、修了後の活躍の意識がさらに高まったものと考えられます。

また実際に、本コースに参加された学生の皆さんは、修了後に様々な場面で活躍されています。

今後は、これを契機としてさらに学びを深め、全国の仲間との新たなネットワークを構築しつつ、地元消防本部で着実に実績を重ねて幹部職員となり、女性の活躍が当たり前という状況が多く消防本部で実現することを期待しています。

消防大学校では、各学科、コースともに定員の5%を女性消防吏員の優先枠として設定し、女性の入校を推進しています。さらなる活躍を目指し、女性消防吏員の皆様の消防大学校への積極的な入校をお待ちしています。



火災調査科における教育訓練 ～模擬家屋調査実習について～

消防大学校では、年に2回、全国から現に火災調査業務に従事し、今後の火災調査業務の教育指導者又はその予定者やさらなるスキルアップを目指している者が集まり、約50日間、火災調査に関する高度の知識及び技術を専門的に修得し、火災調査業務の教育指導者等としての資質の向上を図ることを目的に火災調査科の教育課程を実施しています。

本稿では、「すべては探究心からはじまる」をテーマに、次の火災を防ぐ、発生した火災の被害を軽減するために、出火箇所の判定及び出火原因の究明を目的とした実習の一つである模擬家屋調査実習の概要と取り組みを紹介します。

1 模擬家屋調査実習の概要

この実習は、延べ面積10㎡程度の1Kの間取り（居室及び台所）で発生した火災を想定し、様々な出火原因により燃焼させて、実際の建物火災と同様に火災原因調査を実施するものです。

学生には、出場隊としての消火活動、情報収集から、関係者への聞き取り、実況見分調査及び鑑識見分調査によって得られた結果から検討、考察を行い、関係者への最終的な出火原因判定の説明、火災調査書類作成まで、一連の火災調査業務を実施することで、火災原因調査の進め方、立証のための調査や再現実験などの経験を積み重ね、火災調査要領及び指導要領の知識・技術の向上を図るものです。

(1) 火災出場時における見分調査要領

火災出場した調査員又は出場隊等は「現場到着時」における燃焼状況、「消火活動中」における燃焼状況、異音、異臭、施錠状況等の把握、関係者からの情報収集

(2) 現場における調査要領

焼損建物の見分要領、発掘前の写真撮影及び図面作成、出火範囲の限定、関係者への聞き取り調査、現場の発掘要領、復元要領



現場見分状況(発掘)

(3) 出火原因判定要領

ア 出火箇所の判定

イ 出火箇所から検討される出火原因（発火源、経過、着火物）の考察及び判定

(4) 関係者に対する説明要領

所有者等、メーカー等に対する出火原因の説明、矛

盾点の解消

(5) 火災調査書類作成

火災調査書、出火原因判定書、実況見分調査書、鑑識見分調査書、調査員による実験報告書、質問調査などの火災調査書類作成

2 火災調査科第37期及び第38期学生の取り組みについて

模擬家屋4棟を学生48名（模擬家屋1棟に各12名）により各任務分担（現場責任者、主任調査員〈調査推進役〉、調査員2名、図面作成、写真撮影）を決めて、占有者やメーカーに扮する関係者からの聞き取り要領、写真撮影要領、実際に各種資器材を活用した分解鑑識要領、焼損物件鑑識時の安全管理、最後は研修生全員の前で各棟の主任調査員が関係者に対する原因説明を実施しました。

各棟の説明実施後には、支援講師による全体を通じた講評をいただき、今後の火災原因調査に向けて、焼けの強弱や方向性、出火箇所や出火原因の見立てのポイントなど、できる限り知識や知見を持ち帰ろうとする姿勢が感じられました。

火災調査科では、模擬家屋調査実習以外にも、車両火災鑑識や電気鑑識要領など、様々な実習を行っており、各実習後には各班で取りまとめて、今後の火災調査の教養資料にするため、レポート作成、提出をしています。

研修期間で得られた数多くの実習をもとに、地域特性に応じた安全と安心を地域住民に提供するため、探究心をもって出火原因の究明にあたり、次の火災を防ぐための様々な火災予防対策を講じるとともに、教育指導者として新たな火災調査担当者を育てるなど、各所属での活躍が大いに期待されます。

問い合わせ先

消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1711